

## 2015 年度第 3 回 日本学連幹事会 資料

開催日時：2016 年（平成 28 年）1 月 30 日（土）

開催会場：羽島市役所市民会館第 1 会議室（岐阜県羽島市）

1. 個人情報について	
2. インカレロング女子選手権競技者数について	[資料 1]
3. 後援大会規約の作成について	
4. 目安箱について	
5. 日本学連活動報告書について	
6. 賛助会員登録について	[資料 2]
7. 春インカレについて	
8. インカレスプリント・ロングについて	
9. テレイン使用申請の書式と方法の見直し	
10. 事業計画報告	
11. 地図会計について	[資料 3]
12. 新機軸事業について	[資料 4]
13. 事務局関連費用について	[資料 5]
14. 事務局移転の検討	[資料 6]
15. 後援申請報告	
16. 会計について	
17. スキーオリエンテーリング委員会報告	[資料 7]
18. 技術委員会報告	[資料 8]
19. 理事会報告	
20. 各部局活動報告	
21. 地区学連活動報告	
22. 次回幹事会について	

## インカレロング女子競技者数に関するアンケート結果

大学名[ 京都大学 ] 担当者名[ 橋本修志 ]

### 1. 競技者数削減に[ 反対 ]

理由：アンケートに出ていた各大学の賛成意見と変わらない。

賛成の場合は反対の意見に、反対の場合は賛成の意見に対する意見

下位層の選手が出場する地区があるため今の人数は多いという意見があるが、下位層の人数を減らすために全体の選手権クラスの競技者数を減らすと、そうでない地区では上位層の選手を減らすだけになる。

### 2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

理由：男子の選手権クラスの人数 60 人は開催時の男子の競技者数を反映したものではないのだから、女子の選手権クラスの人数も男女比などで流動させる意義がない。

また、例年の学連登録の時期から、インカレロングにその年の競技者数を反映させることは難しいと思われる。

大学名[ 金沢大学 ] 担当者名[ 鈴木彩可 ]

### 1. 競技者数削減に[ 賛成 ]

理由：

- ・ミドルとロングで人数の比率が異なるべきではない
- ・40 人は多い（選手権クラスの価値が低迷していると感じる。男女でセレ通過の競争率を等しくすべき。）
- ・昨年、一昨年のセレを見ても、30 位くらいまでが優勝者の 150%程度のタイムで完走しており、妥当だといえるから。

賛成の場合は反対の意見に、反対の場合は賛成の意見に対する意見

### 2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

理由：

- ・運営上手間がかかる
- ・そのときのインカレにおいて、枠の数が判然とせず枠獲得を目指す選手にとって、目標が分かりにくく、モチベーションをそいでしまうのではないか。
- ・直前に枠の数が分かるというのも、目標を立てにくい上、慌ただしくなってしまう。

大学名[ 相山女学園大学 ] 担当者名[ 福山美矩 ]

1. 競技者数削減に[ 賛成 ]

理由：人数比に合わせるのは適切であるから。

2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

理由：現状に問題を感じないため。

大学名[ 名古屋大学 ]

1. 競技者数削減に[ 賛成 ]

理由

- ・人数比に合わせるのは適切だと思う。
- ・運営労力の削減ができる

2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

理由

- ・流動的では競技レベルが向上しないのでは？
- ・枠の数がわかりにくい

大学名[ 北海道大学 ] 担当者名[ 松本悠暉 ]

1. 競技者数削減に[ 反対 ]

理由：女子の競技者数が増えている中エリート枠を削減し倍率を上げる行為に疑問を感じるためです。また、選手権クラスは参加費が高いことから選手権競技者の削減は運営の財政的な面を見てもメリットのない決定だと考えます。さらにエリートを全く排出できない大学が増え、全国的なオリエンテーリングへのモチベーションの低下につながることも決して無視できない事項であると考えます。

2. 競技者数固定に[ 反対 ]

流動的競技者数決定方法の案：人数が増えすぎると運営の負担になることから、男女合計で何人選手権の部の参加を認めると決め、その人数から年年の加盟員の男女比に一致するように人数を振り分けるという案がでました。

3. 4. 特筆すべき内容はありません。

大学名[ 大阪大学 ] 担当者名[ 小池裕介 ]

1. 競技者数削減に[ 反対 ]

理由：前回と同様。

賛成の場合は反対の意見に、反対の場合は賛成の意見に対する意見

女子の枠が少ない学連ではより枠獲得が困難になる。それは女子の士気を下げ、オリエンテーリング普及にとってマイナスとなる

4. その他意見、

学連ごとに選手権クラスの最低保証人数が定められているが、この人数を1人で固定するのではなく人数比で振り分ければいいのではないかという意見が出た。

大学名[ 東京農工大 ]

2. インカレロング

インカレミドルとインカレスプリントに対してインカレロングの人数不平等を問題にするなら、2大会と同様に60:30人にしなければ根本的な解決にならないと思う

また、各年度の比率によって人数を変えるのも試験的に行っても良いのではないか、という意見もあったが、具体的な%までは出なかった。

大学名[ 慶應義塾大学 ] 担当者名[ 土屋和輝 ]

1. 競技者数削減に[ 反対 ]

理由：選手にとってインカレ出場は一つの目標でもあり、男女比だけを考えてその目標であるインカレロングの枠を減らす必要性がないから。

2. 競技者数固定に[ 反対 ]

理由：現時点でルールを縛りつけるのではなく、その時の情勢に合わせたルールを考えればよいと思われるから。

大学名[ 東京大学 ] 担当者名[ 田中翔大 ]

1. 競技者数削減に[ 賛成 ]

理由：エリートの男女比を学連加盟員の男女比にあわせることは妥当である。また、出場者の全員が競技時間内での完走を果たしているわけではないのが現状であり、現在の女子の競技レベルを考えるとエリート数を減らす方が妥当である。

賛成の場合は反対の意見に、反対の場合は賛成の意見に対する意見

モチベーションを削ぐ、エリート一人の地区もでるという意見については、意見として弱いと感じる。ミドルスプリントも40にすべきという意見については、運営の負担を増やすべきではないという意見が出た。

2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

理由：毎回競技者数が変わっていたら運営者の負担が大きくなるから。

大学名[ 新潟大学 ] 担当者名[ 鈴木友紀乃 ]

1. 競技者数削減に[賛成]

理由：現在の日本学連加盟数は男女比2：1であるため。

賛成の場合は反対の意見に、反対の場合は賛成の意見に対する意見  
インカレロングのみ男女比が異なるのは不自然である。

2. 競技者数固定に[反対]

理由：現在の日本学連加盟員の男女比が2：1であることを理由にインカレロングの女子選手権競技者を変更するのであれば、これからも加盟者の男女比率によって競技者数を変えるべきであるから。

反対の場合は流動的競技者数決定方法の案

- ・日本学連加盟者の男女比率によって競技者数を決定する

4. その他意見

日本学連の意見に概ね賛成であるが、今までインカレロングでは選手権の女子の人数が40名であっても運営できていたのに、なぜこのタイミングでそれを変更しようという流れになったのかを教えていただきたい。

大学名[ 京都女子大学 ]

1. 競技者数削減に[ 反対 ]

理由：ロングとミドルで一緒の基準にする必要は無いのではないか。  
モチベーションを削ぐ。

賛成の場合は反対の意見に、反対の場合は賛成の意見に対する意見  
男女比は変動するものなのであり、さらにミドル、スプリントに人数比を合わせる必要はない。

2. 競技者数固定に[ 反対 ]

理由：加盟登録者数はその年年で変わっていくため、固定にしてしまうと後々変更しなくてはならないため。極端に増減してしまう年がでてくる可能性もあるのではないか。

反対の場合は流動的競技者数決定方法の案（あれば）

総会で議論されていたが、加盟登録数の15%ほどの割合定める方がよいと考える。

3. この議論の深め方についての意見（あれば）

特に無し。

4. その他意見、

ロングの人数を削減することにより運営側の負担が楽になるのなら、その分表彰等の演出をもう少し凝ってほしいという意見が出ました。

大学名[ 筑波大学 ]

1. 競技者数削減に[ 賛成 ]

理由：現状、40人という人数の中でコースに見合った実力のない選手がいることは事実であり、走りきることが出来ない選手が選手権に出ても運営の負担を無駄に増やすことになると思うため

2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

理由：今後競技者数が増えていったとして、流動的にするならどこかで運営への負担が限界になる点があると考えため

大学名[ 岩手大学 ] 担当者名[ 伊藤健太 ]

1. 競技者数削減に[ 賛成 ]

理由：加盟員の男女比にしたがって競技者数を決めるのが妥当であるから。

また現在のエリートの実力の開きが極端であり、エリートクラスの意義や運営の負担を考へても、競技者数を削減したほうが適切であると思われるから。

賛成の場合は反対の意見に、反対の場合は賛成の意見に対する意見

エリートになれる可能性が狭まったとしても、エリートを目指す競技者のモチベーションにそれほど大きな影響を及ぼすとは考えられない。むしろ競争の激化により全体のレベルが向上する可能性があり、競技者側にメリットが無いとは一概には言えない。

2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

理由：複雑化することで、学連枠を振り分ける際の混乱などのトラブルが発生しうから。

3. この議論の深め方についての意見（あれば）

各校渉外を主に形成される学連総会において、渉外担当者以外の加盟員個人の意見が新たに出てくることはないため、インカレ会場などよりオープンな場での意見収集も考えるべきだと思います。

大学名[ 津田塾大学 ] 担当者名[ 佐藤 ]

インカレロング女子選手権の人数削減について、津田塾大学は以前と変わらず反対です。理由は、女子のインカレへの思い入れが薄まってしまうと思うからです。

大学名[ 十文字学園女子大学 ] 担当者名[ 藤谷彩夏 ]

1. 競技者数削減に[ 反対 ]

10人枠が減ることで今まで選手権に選ばれていた人が、選ばれなくなり大学から一人も選手権が出なくなることも考えられ、全体のモチベーションが下がりそうだと思います。さらに、一年に数回しかない、インカレで、急に人数を減らしてしまったら、モチベーションが下がってしまう。人数が減ることによって気持ちの面でも変わってくることで、女子でもオリエンを頑張りたいという人もいるので、その人たちの希望を壊してしまうことになると思ったからです。それに選手権が多い方が盛り上がると思います。

2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

選手権の人数が決まっていることによって、明確な目標を立てやすく頑張れると思います。いくら、平等さが大事でも、毎回替えがあるとはもちろん運営者の負担であること、競技者も、毎回変わるにより混乱してしまいトラブルが起こりそうであると思う。固定の方がシンプルで、競技者も分かりやすい。

大学名[ 実践女子大学 ] 担当者名[ 小林晴美 ]

1. 競技者数削減に[ 反対 ]

理由：前回の意見と大体同じです。

ミドルの選手権人数はBエリートがあってこそその30人だったのだからそれに合わせるのはおかしいという京都大学の意見に賛成するのがありました。

2. 競技者数固定に[ 賛成 ]

理由：固定の方がわかりやすいから

大学名[ 奈良女子大学 ] 担当者名[ 燈田真佑子 ]

1. 競技者数削減に[ 賛成 ・ 反対 ]

理由：ミドルやスプリントが現在の男女比に従って60:30となっているのに、ロングも合わせなければならない必要性を感じないから。競技者数の男女比だけで選手権クラスの競技者数を決めるのはどうなのか。また、女子の競技者数が増えてきている中で、選手権の競技者数を減らすことにより選手権クラスに出られる可能性を狭めることで、競技者の意識が下がると思われる。このことは理由としては弱いと言われるが、今後の女子の競技者数の減少にもつながってしまう可能性もあり、やはり大事なことであると思うから。

2. 競技者数固定に[ 賛成 ・ 反対 ]

理由：毎年度の競技者数の比率によって、選手権クラスの競技者数を変更するのは面倒であるから

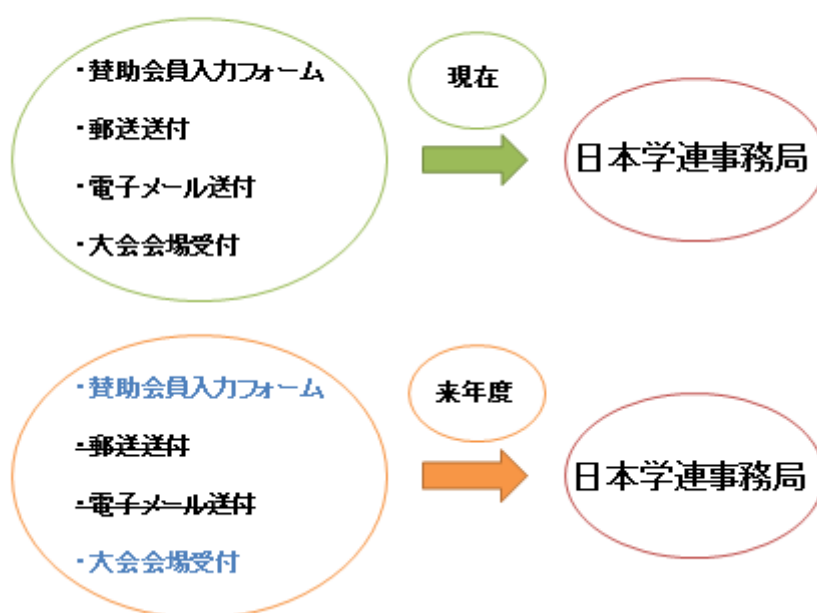


## 賛助会員登録方法について

文責 細正隆

賛助会員の登録方法について、現在は「入力フォーム」「郵送」「メール」「大会会場受付」の4種類があります。この登録方法を来年度より以下の図のように「入力フォーム」「大会会場受付」の2種類に減らし、「郵送」と「メール」による登録方法を廃止しようと考えております。

### 賛助会員申込み方法



申込み方法を現在の4種類から2種類に減らすことにより、

- ・ 日本学連 HP の「賛助会員登録」での説明を減らし、内容をわかりやすくできる
- ・ 申込み方法を減らすことで事務局側の負担を減らせる
- ・ 記入漏れのある申込みを減らせる

ことが期待できます。

このための作業として、日本学連 HP の「賛助会員登録」での記述・説明の修正を広報の方と協力して行いたいと思います。来年度から実行したいので、今年度中には修正をしようと考えております。

## 2015 年度日本学連販売地図売上中途報告

2016 年 1 月幹事会中途報告

報告者：YMOE 社 山川

(参考：2014 年度は 7986 枚、2013 年度は 11794 枚、2012 年度は 8521 枚、2011 年度は 3542 枚、2010 年度は 2767 枚、2009 年度は 2328 枚)

実施日	トレイン名	団体名	YMOE 伝票番号	枚数	備考	備考 2
4 月 18 日	日光愛宕山	慶応大	栃 2015-13	32		
4 月 25 日～26 日	日光例幣使街道	慶応大	栃 2015-14	76		
4 月 25 日	日光例幣使街道	筑波大学	栃 2015-15	57		
4 月 25 日～26 日	日光例幣使街道	早稲田大学	栃 2015-16	58		
5 月 3 日	椈の湖	名古屋大学	地印 2015-5	174		
5 月 31 日	日光愛宕山	千葉大学	栃 2015-17	41		
6 月 13 日	矢板日新	筑波大学	栃 2015-18	33		
6 月 8 日	日光例幣使街道	東京工業大学	栃 2015-19	30		
6 月 14 日	日光愛宕山	東京大学	栃 2015-20	152		
6 月 13 日	日光例幣使街道	千葉大学	栃 2015-21	32		
6 月 13 日	日光愛宕山	筑波大学	栃 2015-22	53		
6 月 21 日	日光口	関東学連	栃 2015-23	336		
6 月 21 日	日光和泉	関東学連	栃 2015-23	279		
7 月 19 日～20 日	日光口	茨城大学	栃 2015-24	6		
	日光和泉	茨城大学	栃 2015-24	4		
	日光例幣使街道	茨城大学	栃 2015-24	85		
	日光所野	茨城大学	栃 2015-24	50		
7 月 11 日	日光和泉	戸上	栃 2015-25	24		
8 月 3 日	毘沙門山	東京大学	栃 2015-26	175		
8 月 7 日	日光愛宕山	早稲田大学	栃 2015-27	51		
8 月 23 日～25 日	矢板日新	2013 同期	栃 2015-28	62		
	矢板幸岡	2013 同期	栃 2015-28	90		
	番匠峰古墳	2013 同期	栃 2015-28	63		
	矢板運動公園	2013 同期	栃 2015-28		44	
9 月 6 日	矢板山田	茨城大学	栃 2015-29	33		
9 月 9 日	日光例幣使街道	関東新人戦	栃 2015-30	326		
9 月 13 日	不動の滝 (南)	千葉大学	栃 2015-31	52		
9 月 19 日～21 日	日光和泉	東京農工大学	栃 2015-32	22		
	不動の滝 (南)	東京農工大学	栃 2015-32	45		
	日光例幣使街道	東京農工大学	栃 2015-32	22		

9月27日	日光和泉	東京大学	栃 2015-33	163		
	日光口	東京大学	栃 2015-33	42		
10月11日～12日	矢板幸岡	名古屋大学	栃 2015-34	19		
	番匠峰古墳	名古屋大学	栃 2015-34	54		
10月11日	矢板日新	茨城大学	栃 2015-35	64		
11月14日～15日	矢板山田	新潟大学	栃 2015-36	33		
	矢板日新	新潟大学	栃 2015-36	37		
11月21日	日光愛宕山	千葉大学	栃 2015-37	48		
11月22日	毘沙門山	東京工業大学	栃 2015-38	56		
11月28日	矢板山苗代	立川洋さん追悼	栃 2015-39	129		
11月28日	矢板日新	留年練習会	栃 2015-40	217		
	矢板山田	留年練習会	栃 2015-40	113		
12月5日	矢板山苗代	東京工業大学	栃 2015-42	72		
12月6日	矢板山苗代	茨城大学	栃 2015-43	69		
資料	番匠峰古墳	茨城大学	栃 2015-43	4		
12月6日	矢板日新	KOLC	栃 2015-44	78		
12月13日	矢板山苗代	千葉大学	栃 2015-45	40		
12月13日	椈の湖	名古屋大学	地印 2015-11	115		
12月12日～13日	矢板山田	筑波大学	栃 2015-46	46		
	矢板幸岡	筑波大学	栃 2015-46	48		
12月20日	番匠峰古墳	三地区合同セ レ	栃 2015-47	629		
12月26日～27日	矢板日新	千葉大学	栃 2015-48	72		
12月26日～28日	日光所野	KOLC	栃 2015-49	82		
	不動の滝（南）	KOLC	栃 2015-49	95		
	日光例幣使街道	KOLC	栃 2015-49	100		
12月25日～27日	日光和泉	東京工業大学	栃 2015-50	72		
	日光所野	東京工業大学	栃 2015-50	98		
	不動の滝（南）	東京工業大学	栃 2015-50	59		
12月28日～30日	日光愛宕山	トータス	栃 2015-51	158		
12月14日	日光和泉	トータス	栃 2015-51	210		
12月14日	日光例幣使街道	トータス	栃 2015-51	90		

1月10日	日光所野	千葉大学	栃 2016-1	41		
1月9日～10日	矢板日新	京都大学	栃 2016-2	69		
	矢板山苗代	京都大学	栃 2016-2	50		
1月17日	日光例幣使街道	千葉大学	栃 2016-3	20		
1月15日～17日	矢板山苗代	新潟大学	栃 2016-4	149		
	矢板日新	新潟大学	栃 2016-4	281		
1月16日～17日	矢板日新	東京大学	栃 2016-5	345		
	番匠峰古墳	東京大学	栃 2016-5	305		
1月17日	日光所野	筑波大学	栃 2016-6	23		
1月24日	矢板山田	東京大学	栃 2016-7	167		
1月30日～31日	不動の滝(南)	筑波大学	栃 2016-8	45		
	矢板山田	筑波大学	栃 2016-8	33		
2月6日	日光所野	2014 同期合宿	栃 2016-9	127		
2月6日	日光例幣使街道	学連合宿	栃 2016-10			印刷費のみ
2月7日	塩谷田所	山リハ	自社事業			

2015年度日本学連販売地図売上中途報告

2016年1月幹事会中途報告

報告者：YMOE社 山川

(参考：2014年度は7986枚、2013年度は11794枚、2012年度は8521枚、2011年度は3542枚、2010年度は2767枚、  
2009年度は2328枚)

最終報告ではテレイン別集計も行います

**7230** 枚      **7274**

【初出企画使用分】

11月29日	塩谷田所(KOLC大) 会	栞 2015-41			
	初出分		548		
	販売分		76		

**624** 枚初出分 **548** 販売対象分 **76**

学連が有償で売った地図の総枚数 **7898** 枚

学連内部使用分 枚

指定管理業者への印刷代支払いを除いた学連の収入額として単価

200円のものもの地図売上	<b>7306</b> 枚	<b>¥ 1,461,200</b>
150円のものもの地図売上	<b>44</b> 枚	<b>¥ 6,600</b>
初出地図分(学連分550円)の地	<b>548</b> 枚	<b>¥ 301,400</b>

学連地図の総使用枚数 枚  
**7898**

(春インカレの現場を除く)

2014 年度日本学連地図売上総額 **¥ 1,769,200**

【説明】 2015 年度中途報告が 2014 年度全体の枚数より少なく、売上がより大きいのは、筑波と KOLC 大会の初出使用分の違いによる

2014 年度 YMOE 代行分の地図売上は 257 万 5800 円

(新機軸事業/矢板山苗代) **¥ 1,693,500**

2013 年度 YMOE 代行分の地図売上は 257 万 5800 円

(新機軸事業/毘沙門山と矢板山田) **¥ 2,575,800**

愛知インカレであってもこれだけの売上を確保、矢板山苗代の資本投下分を上回る売上を達成  
(評価文は 3 月に書き下ろす)

【新地図会計規定による 2015 年度事業】

	他日光トレイン維持改訂作業	2015 年 6 月担当理事	別途報告	¥ 200,000
	矢板トレイン維持改訂作業	2015 年 12 月再発議 (メールベース)	別途報告	¥ 200,000
	塩谷田所新規地図作成事業	2015 年 9 月幹事会で決議	別途報告	¥ 1,600,000
	インカレスプリント新規持ち回りカップ			¥ 69,120

【2016 年度】2015 年度でのやりとりを背景に、多分 20 万以内の案件を都度担当理事に提示するで、解決できると踏んでいるトレイン整備作業は、絶対に必要なことなので、新地図規約にのっとり、今度は幹事長・会計・担当理事と協議の上、学連にとって良い様に、2016 年度も進めていきたいと思ひます。

また、新機軸事業についてですが、粉をかけている団体はありますが、1/30 幹事会時点で学連に正式に申請しようという団体は現れていません。しかし申請の提案がきても良いように、先行投資的部分（基礎調査と正確な見積もりの算定）をどんどん先回りで進めていきたいと思ひます。

【新地図会計規定に則り、提示予定事業】

- |  |             |
|--|-------------|
|  | 予算規模        |
| 1. 新機軸事業第 5 弾（栃木県矢板市内）                               | 140 万～160 万 |
| 2. 日光トレイン維持改訂事業（セレクションに対応して地図担当理事に事前に申請）             | 20 万円（最大値）  |
| 3. 矢板トレイン維持管理事業（セレクションに対応して事前に地図担当理事に申請）             | 20 万円（最大値）  |
| 4. 「矢板塩田」大幅経年修正作業（2016 年度秋インカレに対応）                   | インカレロング予算で  |
| 5. インカレスプリント地図作成（多分、著作権は栃木県協会に持っていただく予定）インカレスプリント予算で | 算で          |

トレインパトロール、要修正かどうかの情報収集方法について幹事会で話したい

2015 年 8 月～9 月 前広報の高橋くんと、学連地図の WEB 広報の大幅改訂作業

<別資料>

事務局（目白台芙蓉ハイツ 104）の学連資材を長く風呂場に置いたことによるリフォーム代報告

給湯器交換	105000
風呂場掃除（ダスキンに外注）	25920
浴室電気系統修理と照明交換	8280
空気清浄機	11300

150500

対象外として除湿機・加湿器

トップへ戻る

## 地図規約様式 矢板地図修正

### 「番匠峰古墳」改定作業の事前算定書

<補充提出資料><16/1/30 幹事会報告用顛末書>

#### 【経緯】

6月幹事会、9月幹事会で、前提ありきでの申請はダメ、担当理事決済枠 20 万円は時短で決済できるのから、具体的な事業の内容が明らかになった時点での申請ということで、日光はそのままだが、矢板は一旦却下、

とはいっても、番匠峰古墳の養鶏場より北西側の地図改訂がここ数年放置されている事態は判っていたので、なんとかしたいという思いから（地形もインカレ本番に類似している）別紙のような答申を関東学連に提出、9月の関東学連総会の議決で採択

8月の北東総会で、ミドルセレは関東に相乗りすることが決定

その後北信越のミドルセレも相乗りすることが決定し、三地区合同のミドルセレとなることが決定、500名超の参加者になることが確定的（その意味でもキャパのある会場が選出された）

一方、三地区合同セレとなりスタッフも各地区から、実行委員長は佐藤大樹に

また、別の動きとして、長年の夢だった「ヤマカワハウス」購入、始動。セレのスタッフ宿としても使用することになった。また例年より資材面で圧倒的有利な環境（勿論この面で大幅出費減）を得た。

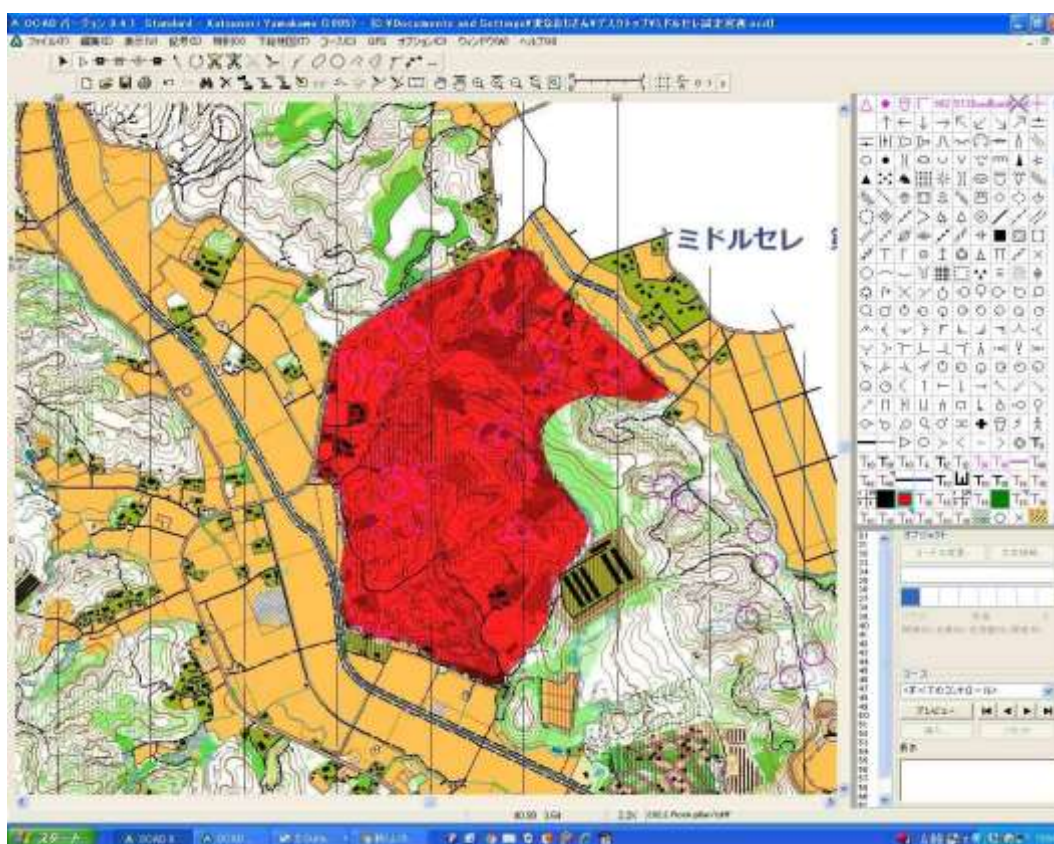
ここまでお膳立てが整い、先日の 11/22 に第 1 回試走会開催、そこで大問題発生「番匠峰古墳」北東部の、ここ数年間の更新放置はかなりのつびきならない事態になっていることが判明。元々3年前位に合宿した OLK からかなり変わっていることは聞いていたが、まともにフラッグが置けない（植生が全く変化、地形もしっくり来ない（山川補注：多分初版作成が古く、2次でプロが入っているとはいえ初版の実行委員調査を引きずっているのと、そもそもその頃も地形認識に対する洗練度が今とは格段に違うためだと思われる）状態で、試走不成立で退散フラッグも再調査のためにおきっぱに現状してある。

実行委員長の見立ては、このままの地図利用ではセレ開催困難対処法は徹底的に調査しなおすか、トレイン変更しかし、すでにどの他のトレインも申請がきており（トレイン確保も競争状態、その意味で日本学連の新政策はうまく回っている）変更を強制するのも大きなエネルギーを要する急遽、実行委員長と地図業者で現地に対応策を練り、徹底的に該当区域を調査しなおすことで対応することにした。

で、問題は費用。徹底的に調査しなおすとすると、到底 20 万の担当理事決済枠の中では収まらない。本来なら日本学連の財産として地図会計でしっかりと管轄し、利用者には定額の @350 円で利用していただくというのが決まった形だが、今回これをやろうとするとことはセレだけに、会議場所が幹事会ということになると、セレの選手当事者である学生幹事にも競技にかかわるような重要な情報を展開して議論することになる。

そもそも時間的にも担当地図業者は今年すごく忙しく、これ以上幹事会に時間とエネルギーを今割くことは困難、また三地区合同セレということでも宿はヤマカワハウス、資材も多くが融通で、例年より出費大幅減が見込まれ、大黒字の予想、例外的ではあるが不足分をセレ会計で補充していただくという、例外的措置で解決を図りたい  
・・・と山川と佐藤で相談し、これに担当理事の齋藤理事を引き込んで三者で決済したい。  
(決済一応関わる幹事長と会計には齋藤理事から必要部分のみ説明) 以下に図面で説明と見積もりをします。

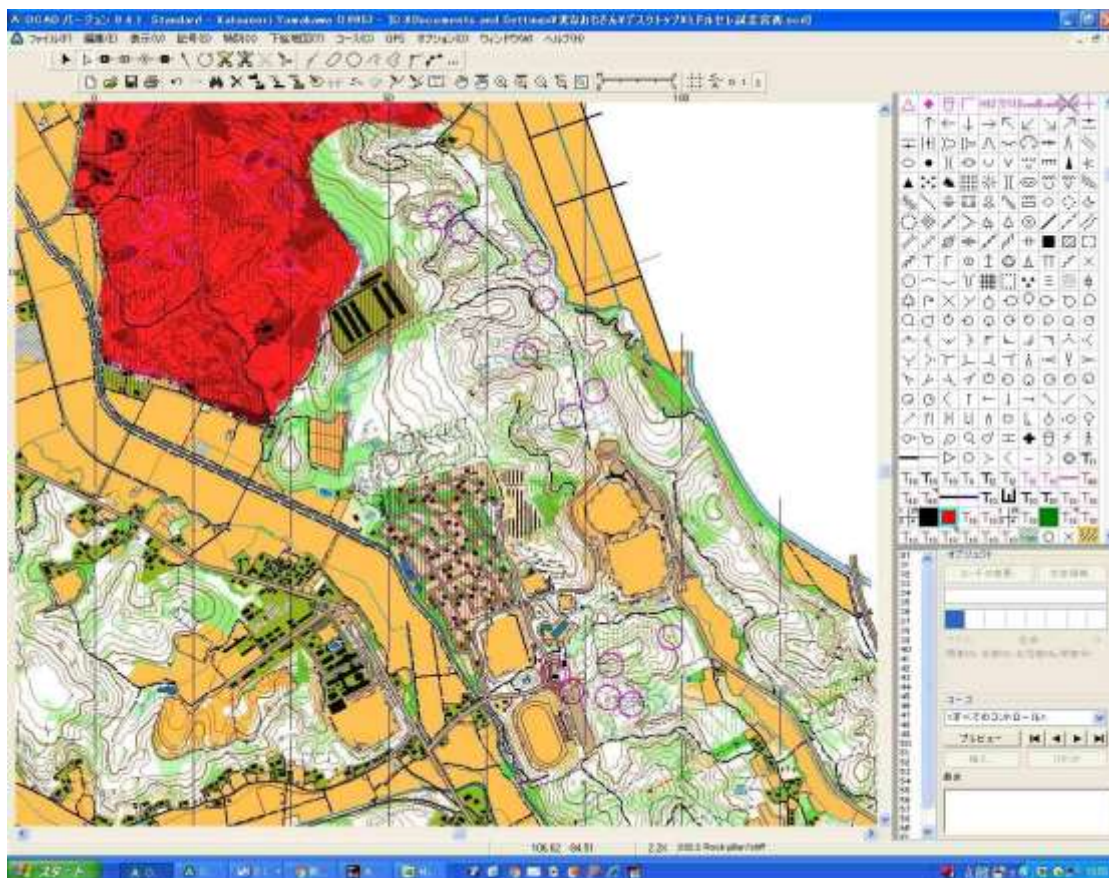
fig1



この赤色範囲がここ数年の行事(山リハや合宿)から使用頻度がなく、更新がなされていない部分、多分6年以上放置していたと思う。山川自身もとんこのエリアに入っていない責任は前から感じていた。なのでセレを誘致したが、そのひどさは佐藤くんから語っていただきます。尚、OCAD でこのエリアの面積を測ると 66 ヘクタールです。



fig2



残りの区域は植生はかなり変化していると報告を受けていますが、上記期間でも山リハを2回開催しており、通常の更新作業2日分と見積ります。つまりここは@33333円×2日=66666円前提で見積作業を続けます。

上の赤色範囲は、いわゆる最初からやり直す調査の価格を摘要します。

前例として「日光所野」が5000円、世界選手権地図を原図とした「愛知インカレ」が3620円です。

例外的に福井ロング（単価7000円にして、余分な経費（長すぎる稼働期間）支出を拒否した）とか希望が丘とかありますが、それは参考にしません。多分佐藤君の下見感覚では愛知インカレ以上の調査ストレスがかかることは確実です。なので以下のような見積計算をしてみます

徹底調査部分	単価	小計	通常更新調査部分	合計見積
日光所野ベース	66	5000	330000 66666	396666
愛知インカレベース	66	3620	238920 66666	305586
その中間	66	4310	284460 66666	351126
単価4000円では	66	4000	264000 66666	330666
単価4500円では	66	4500	297000 66666	363666

セレ会計という独立した会計に例外的にお願いする以上は、その会計を赤字にすることはできませんので、実際の請求は状況次第ということになります（その前提で実行委員会とは約束します）まあ楽観的ですけど。もし、かけた費用に見合わないほど多額の事業だったとしてもそれは地図業者の負担ということになりますが、事後の地図売上の利益も指名されているわけですから十分飲めますし、毘沙門山の時の赤字程にはなりえないと考えています。

まあ上記の額あたりで20万が地図会計の負担（齋藤理事決済）残りはセレ会計という次第です。多分”その中間”くらいの請求でおちつくと思います。

このテレインは、インカレロング400人時代という一番の底の時代を乗り切ったテレインでもあります。これを機にちゃんと日本学連の地図財産という位置づけをきちんと見直し、このテレインを長く愛せるように、今回のこの事業に短期間ではありますが集中して臨みたいと思います・

11月25日山川記 佐藤君のほうからも追加でコメントいただけると幸いです。

よろしくお願いします。

以降齋藤理事とのやりとりから第一義を、テレイン維持管理、第二義をセレの公正な開催という位置づけにして

20万枠の予算を適用但し今回はそれでは足りない、参加費の値上げ等色々議論したが、今回の合同セレは十分に余裕があり、第一義で予算執行する20万を超えない範囲で第二義として、セレ実行委員会会計から特例として、予算を執行していただくことで了承いただく結果

セレの他の支出項目の様子が判るまで待つて、請求を行った。それでも十分残るということだったので、上記の一番高い単価設定である（366666-200000=¥163,666を支払っていただいた）

今後展望まだまだ地図担当理事の齋藤理事とは、意見をすりあわせていかなきゃいけないが（これから透明性について実績を積み上げていくという認識）日光・矢板のテレインは日本学連の重要な財産という立場で考えれば、今後はこのような緊急措置は避けたい。もっと事前に改訂の必要性を知るべきだし、そういう構造にすべきでもって20万の範囲で収まればスピード処理できるようになった、担当理事案件で答申すればよいのだし、それ以上かかる仕事であれば幹事会に諮るべき

（幹事会が開催できないタイミングの時はメールベースで諮ってもらうことも可能）

こんなところが報告事項です。正直3週間前時点では私も実行委員のスタッフもどうなるんだろうという思いでしたが、なんとか該当区域の全面的調査見直して持ち直しました。尚、日本学連の地図財産云々については、別の立場から幹事会にて発言・提言をしたいと思います。

幹事会でどの切り口で議論するかは、笠松のコメダで事前に打ち合わせしておきましょう

（山川もそれほど文章を書いている時間がないので、話で済むこと＝書記が議事録で書いてもらえること＝はそうしたい）

## 事務局(目白台芙蓉ハイム)リフォームに関する費用について

### ◎事務局リフォームに関する費用について

#### 1. 経緯

昨年末、事務局に加盟員より「当時非加盟員であった過去のインカレ実行委員会が壊した風呂の修理代として、山川氏の家庭の事情に関する理由で、今の加盟員から集めた予算を使うのはいかがなものか。」という旨の意見が寄せられました。

これを受け改めて今回の件について見直すと、学連のお金を使う案件であるにも関わらず年度末に地図会計と合算して報告のみとなっていること、それに伴い具体的金額を提示して承認を取る過程を経ていないこと、など気になる点があります。

そのため、事務局リフォームに関する費用に関して山川氏に詳細な説明を求めるとともに幹事会の場を持ちまして承認を取らせていただきたい次第です。

#### 2. 承認に関する論点

以下にリフォーム関連費用承認に関わる論点を挙げます。このほかにもあればML 上もしくは幹事会中においてお願い致します。

##### i 事務局の名義について

まず現在学連事務局として登録されている事務局はそもそも学連と山川氏(ジェネシスマッピング社)が共用の拠点として借りたものなのか、それとも山川氏が個人として借りていたところに学連が間借りする形で使用させていただいていたのか、この点をはっきりさせたいと思います。

山川氏のサービスでお借りしていたのであれば事務局を学連が実質退去するに伴って(その理由に関わらず)原状回復義務が発生するため風呂の修繕費を支払う必要があると考えられます。

しかし、共用目的で借りているのであれば山川氏の家庭事情による退去の際共同賃借者の立場である学連が修繕費を支払うことについては検討の余地があると考えられます。

##### ii 過去のインカレ実行委員会の責任を現在の学連が果たすことについて

加盟員からの意見でもありましたように当時非加盟員であったインカレ実行委員会の損傷した事務局の修繕費を現在の学連が支払うことについては一考の余地があると考えられます。

その当時のインカレ実行委員会に請求せずこれまで放置していたことから山川氏は修繕費の請求権を放棄したものと考えられるのでは?そもそも「昔の」というだけでいつかも示されていませんが時効案件なのでは?

といったことについて検討したいと思います。

3. 山川氏に説明をいただきたい事項

i リフォームにかかった費用、そのうち学連に請求する金額とその理由。

ii 2 で挙げた論点についての説明

4. 補足(主に山川氏へ)

この議題は学連の透明な会計を目指す方針に則って発案するものであり決して「お金を払いたくない」というゴネではないことをご理解願います。

またこれを機に事務局関係の契約内容をきちんとさせよう、という目的もあります。

そのため、幹事会で正式な承認を行うために 3 に挙げた事項に関してきちんと説明をいただきたい次第です。

幹事、理事の皆様におかれましても本件において他に不透明と感ずる点、また逆に上記論点等でおかしな点があればご指摘いただければ幸いです。

どうぞよろしく願いいたします。

## 事務局移転の検討について

### ◎事務局所在地、連絡先について

#### 1. 経緯

事務局の実質退去に伴って事務局関連の郵送物に関して学連に関係ない方を通してしまうことになる点、事務を行う際の効率化(現在は事務局からの転送を挟んでいる)という点から事務局の移転を考えてもよいのではないかと感じ発案させていただきました。

#### 2. 具体的な時期、候補

時期：2017年度より

理由：長い間事務局を固定していたため動かす際の手続きがどこまで必要か不明。正直なところ学連としてどこまで外と(住所を書くような)社会的つながりを持っているのか不明のため昔から理事をされている方に協力を仰ぎ一つ一つ手続きしていく必要があると考えられるがそれを行うには半年以上の余裕を見たほうが良いと思われるため。

候補：事務担当者自宅、ヤマカワハウス、私書箱

それぞれのメリット、デメリット：

事務担当者自宅…作業効率、対応スピードといった実務的な面での有利がメリット。デメリットは数年おきの変更が必要な点。また、あまり心配することではないかもしれないが担当者が失踪した際の対応がとても大変そう。

ヤマカワハウス…現在の事務局と同様の利用方法になると思われる。管理者がオリエンテering関係者に代わるため現在の事務局管理者よりは心理的ハードルは低い？デメリットは急ぎの案件での対応が難しいこと。

私書箱…郵送物に関しては以前の事務局と同様の使い方ができると考えられる。事務局としての住所を失うことによる社会的な信用の低下がデメリットになりうる。ただし、これに関しては郵送物受付先と事務局住所を別個にすることも可能？

# 日本学生オリエンテーリング連盟 幹事会報告 スキーオリエンテーリング委員会

2016年1月30日 委員長 木村佳司

## 活動報告

第一回世界学生スキーオリエンテーリング選手権大会の代表選手を選考した。

活動は日本オリエンテーリング協会スキーオリエンテーリング委員会と共同で行っている。

## 活動予定

第一回世界学生スキーオリエンテーリング選手権大会へ参加する。

## 第一回世界学生スキーオリエンテーリング選手権大会の概要

場所： ロシア国トゥーラ（モスクワの南 160km）

開催日程： 2016年2月10-16日

2月10日（水） モデルイベント

2月11日（木） スプリント/開会式

2月12日（金） バシュート

2月14日（日） ミックスリレー

2月15日（月） ミドル/開会式

大会ホームページ <http://wusoc2016.ru>

## 日本選手団

役員（2名）柴田達真、木村佳司

選手（8名）男子4名、女子4名

男子

石原拓巳	（いしはらたくみ）	岩手大学
戸田聖人	（とだまさと）	北海道大学
岸祥太郎	（きししょうたろう）	北海道大学
後藤孔要	（ごとうこうよう）	筑波大学院

女子

島貫なつみ	（しまぬきなつみ）	旭川大学
西方美羽	（にししかた みう）	北海道大学
吉岡梨花子	（よしおかりかこ）	北海道大学
渡辺志保	（わたなべしほ）	静岡大学

## 代表選手決定の過程

2015年2月 決定プロセスを提示

2015年11月 ここまでの期間で強化指定選手を選考

2015年12月 代表選考会を実施（北海道）

選考会結果と選考委員の推薦にて代表選手を決定

## 遠征費について

・日本学連からの負担金は求めない。

・原則自己負担

ただし多くの支援が集まっている。

・補助金（JOA スキーオリエンテーリング委員会より各種補助金申請）

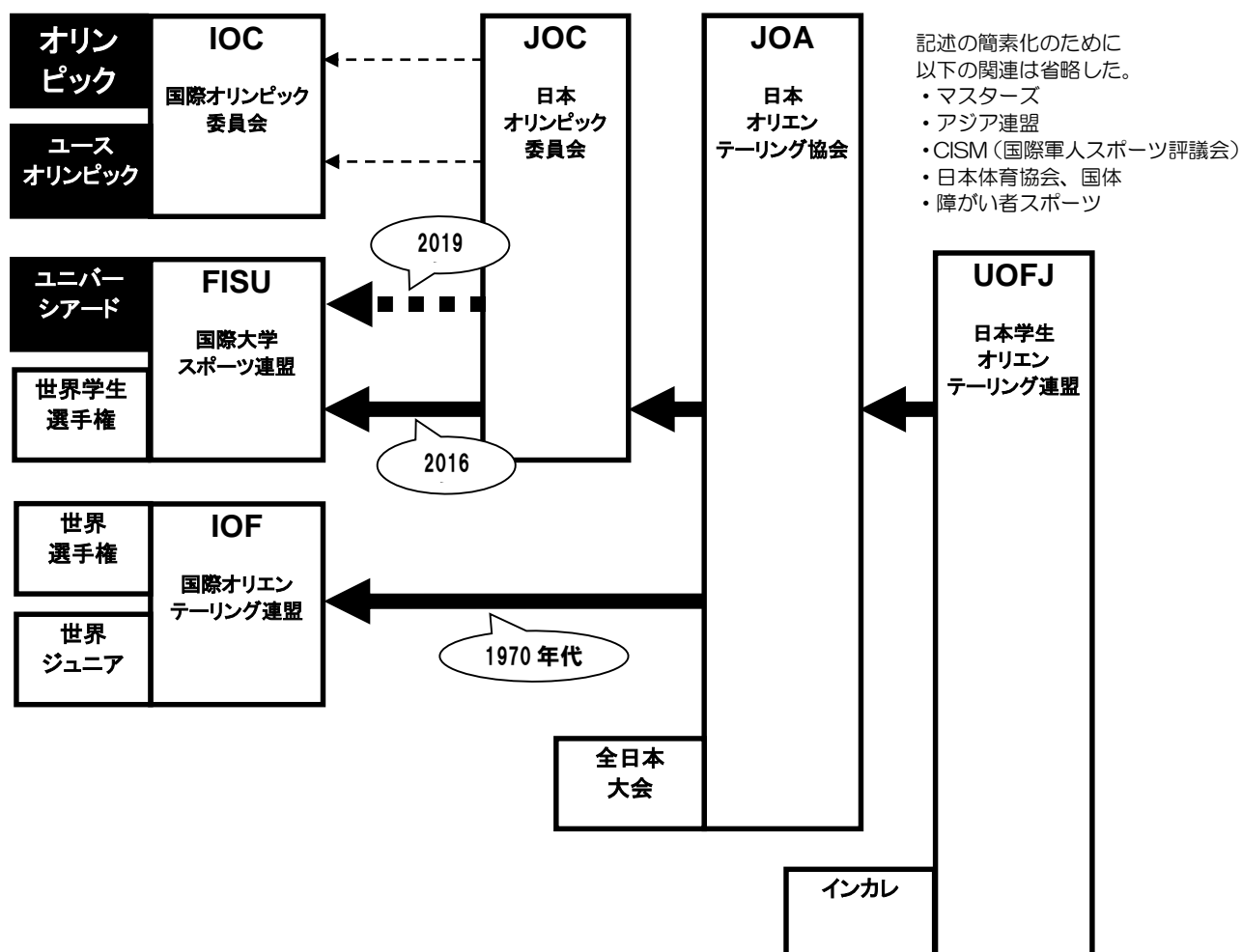
・クラウドファンディングによる募金

「ReadyFor」によるクラウドファンディングで¥800,000 を集めた。

（報告以上）

(以下解説)

第一回世界学生スキーオリエンテーリング大会への日本選手出場が持つ意味  
ひとことと言うと、「オリエンテーリングの普及活動の一環である」



### 国際マルチスポーツイベント

世界的な広がりをもつスポーツの証のひとつが、オリンピック競技として実施されることだ。オリエンテーリングもオリンピック入りを目指しているが、まだ道なかばである。

このような各種スポーツが一堂に会した国際競技会が「国際マルチスポーツイベント」だ。この種目に採用されることが、そのスポーツの元気のバロメータにもなるし、多くの人にそのスポーツを知ってもらえる機会となる。

### JOC が派遣するイベント

オリンピックは IOC (国際オリンピック委員会) が主催する行事。IOC 主催のマルチスポーツイベントは他にもあり、ユースオリンピックもその一つだ。

IOC や AOC (アジアオリンピック委員会) 主催大会の日本代表団は JOC (日本オリンピック委員会) から派遣される。派遣の有無や選手選考は JOC が決定する。派遣費用も JOC が負担する。

基本的に JOC が派遣するのはマルチスポーツイベントの日本選手団だけなのだ。

## 対応が分かれる FISU イベント

FISU（国際学生スポーツ連盟）が主催するイベントに対して JOC の対応は一つではない。というものの、FISU 主催の国際大会は、国際マルチスポーツイベントと国際競技別イベントを 1 年交代で実施しているからである。

## ユニバーシアード

ユニバーシアードは 2 年に 1 回、西暦の奇数年に開催される国際マルチスポーツイベントである。夏季と大会と冬季大会が開催されている。

日本選手団の派遣は JOC が行っている。

残念ながらオリエンテーリングはまだユニバーシアードで開催されたことはない。

## 世界学生大会

FISU 主催で、競技別の世界学生大会はユニバーシアードが開催されない年に行われている。（2 年に 1 回）

フットオリエンテーリングも開催されている。国際マルチスポーツイベントではなく、オリエンテーリング競技の単独開催である。

こうした競技別に行われる世界学生選手権へ JOC は選手派遣を行わない。JOC はエントリーの窓口となるだけであり、実際の派遣は各種国内競技団体が行う。

## 日本学連から FISU まで繋がった

余談ではあるが、ここ数年の間に、日本学生オリエンテーリング連盟が JOA（日本オリエンテーリング協会）に加盟したこと、JOA が JOC の承認団体となったことによって、この部分の情報の流れが良くなった。

日本学連 → JOA → JOC → FISU

今まではそれぞれの組織が公式な関係を持っていなかった。それぞれの組織の担当者がボランティアにエントリー業務をおこなってくれていた。そのおかげで、学生たちはオリエンテーリング世界学生大会に参加できていただけであった。

学生や愛好家の間で世界学生大会を「ユニバ」と呼ばれているが、正確にはユニバーシアード（国際マルチスポーツイベント）と世界学生オリエンテーリング大会（競技別国際大会）は全く別のイベントである。

## JOC から派遣されなかった例

2011 年 2 月。冬季アジア大会（主催：アジアオリンピック委員会）で、スキーオリエンテーリングが正式種目として実施された。だが日本選手団として JOC からスキーオリエンテーリング選手は派遣されなかった。

この時は JOA が JOC に加盟していなかった影響は大きい。出ればメダルは確実だっただけに、残念な思いだった。

## 再び巡ってくるチャンス

2019 年冬季ユニバーシアード（開催国ロシア）では、スキーオリエンテーリングが正式種目として実施される。

ここに選手を送ることができれば、JOC が派遣する初めてのオリエンテーリング選手ということになる。オリエンテーリングが日本のメジャースポーツに向かって一歩階段を登ったことになるだろう。

だが、派遣はそう甘くない。日本選手の実力が伴わなければ、派遣されないリスクもかなりあるだろう。

だが、国際マルチスポーツイベントの種目になるということは、それだけ世界的な盛り上がりを見せているということでもある。それが巡り巡って日本国内での盛り上がりにも繋がってくればと思う。

オリエンテーリングの中ではフットオリエンテーリングのほうがメジャーではあるが、国際マルチスポーツイベントへの参加ではスキーオリエンテーリングのほうが前を進んでいる。冬季スポーツ競技は夏季競技とくらべて競技数が少なく、競技者も少ないことが理由である。

## 2019 に向けた試金石

冬季ユニバーシアード 2019 に先立って、FISU 主催の世界学生スキーオリエンテーリング大会が 2016 年 2 月に開催されることになった。

記念すべき第一回の世界学生大会にどれだけの学生を派遣するすことができるのが 2019 年に向けた試金石となる。この実績なくして 2019 年のユニバーシアード派遣はあり得ないだろう。

## 波及効果は各方面に

スキーオリエンテーリングのこうした活動を通じて日本のスポーツ関係者といろいろと協力関係がでてくるだろう。こうした関係がスキーに限らず、フットオリエンテーリング、MTB オリエンテーリング、トレイルオリエンテーリングにも活かせるかも知れない。

スキーオリエンテーリング競技はこうした分野への切り込み隊なのだ。

（以上解説）



## 技術委員会報告

2016年1月30日

### 1、学連合宿開催

2月6日に矢板日新にて学連合宿を開催予定です。参加者は約70名となりました。

### 2、ユニバーシアードの選手選考基準について

今年ハンガリーで行われるユニバーシアードの日本代表選手選考の詳細な選考基準を技術委員会のHPにて公開いたしました。学生の皆さんはぜひチャレンジしてみてください。

### 3、H I Sからのお話について

日本学連のMLにてあったH I Sの方からのユニバー遠征にかかわる航空券手配などの申し出についてお話を詳しく聞いてきました。

航空券の手配からスケジュールの管理まで行ってもらえるようです。

ただし、オリエンテーリングでは現地の空港に到着してからの交通と宿泊は大体主催者に用意していただけるので、基本的には航空券手配以外はしてもらえないことがあります。

もし、ほかにも国内での手配なども必要であればアレンジしてもらえるとのことでしたが、そのあたりは技術委員長の範囲を超えていると思うのでもし何かしてほしいことがありましたら、僕のほうまでご相談ください。

### 4、シード選手の推薦

理事会に対してシード選手の推薦を行いました。現在理事会のほうで最終選考中です。